三和の重量シャッター

防火シャッター 電動式
防煙シャッター 電動式

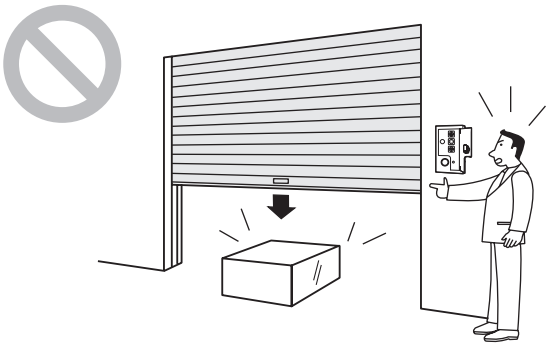
取扱説明書

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
また、いつでもお読みいただけるよう大切に保管してください。
※建設会社・お施主様へ
この取扱説明書は実際に使用される方へ必ずお渡しください。

三和シャッター工業株式会社

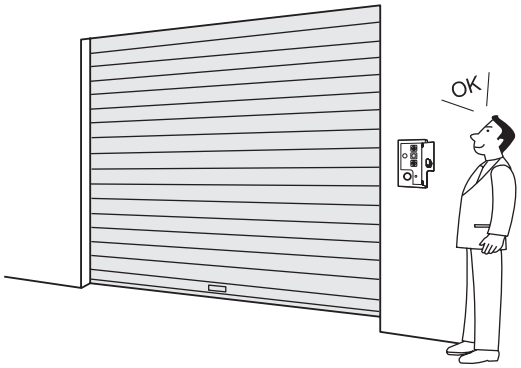
ご使用上の注意

⚠ 警告： 次の警告事項を必ず守ってください。死亡または重傷を負う可能性があります。

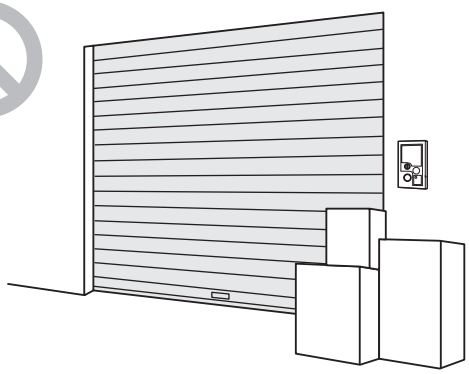


シャッターの閉鎖に支障となるような障害物を置かないでください。火災時に自動的に閉鎖せず延焼が拡大すると大切な財産が失われ、最悪の場合には、煙や炎で人命が失われます。

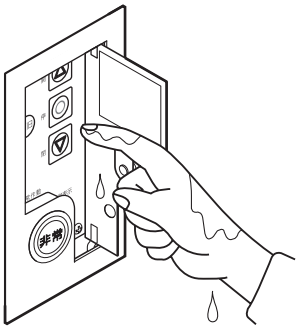
シャッター開閉中は、人や車の出入りは絶対におやめください。はさまれると危険です。



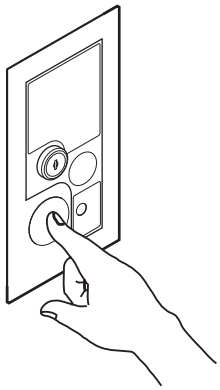
シャッターの開閉が完全に終了するまで離れないでください。緊急時の停止操作ができません。



押ボタンスイッチ（手動閉鎖装置）のまわりには、障害物となる物を置かないでください。緊急のとき操作できません。



ぬれた手での操作はやめてください。感電のおそれがあります。

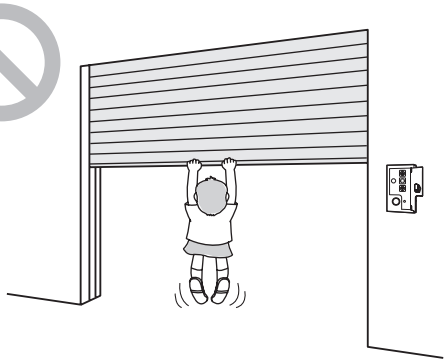


非常時以外は手動閉鎖装置を作動させないでください。シャッターにはさまれるおそれがあります。

ご使用上の注意

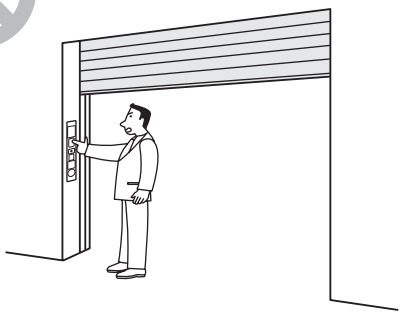
⚠ 警告： 次の警告事項を必ず守ってください。死亡または重傷を負う可能性があります。

シャッターにハシゴを立て掛けて作業をしないでください。シャッターが動いて転落するおそれがあります。



シャッターにぶらさがらないでください。はさまれたり、落下して重傷を負うおそれがあります。

シャッターの改造、分解は行わないでください。故障または性能低下の原因となります。

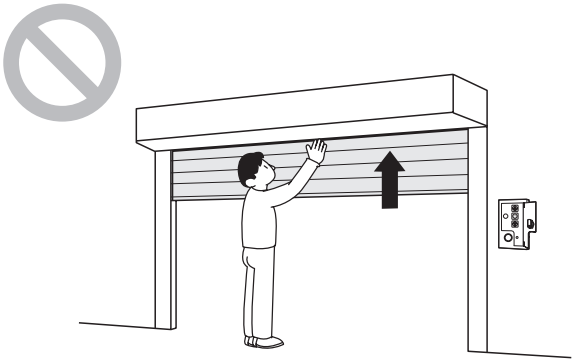


シャッター降下位置で、操作しないでください。
シャッターにはさまれるおそれがあります。

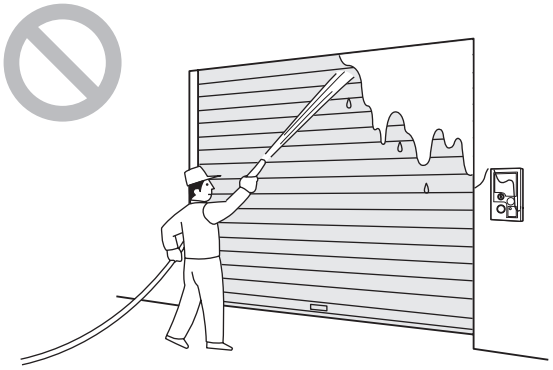
危害防止用連動中継器の蓄電池の寿命は約５年ですので、５年に１度は電池交換をしてください。
定期的に電池交換をしないと火災時にシャッターが閉鎖した際、障害物を検知できなくなるおそれがあります。
交換については、最寄りの三和シヤッター工業（株）営業所または FTS（修理連絡先）へご連絡ください。

ご使用上の注意

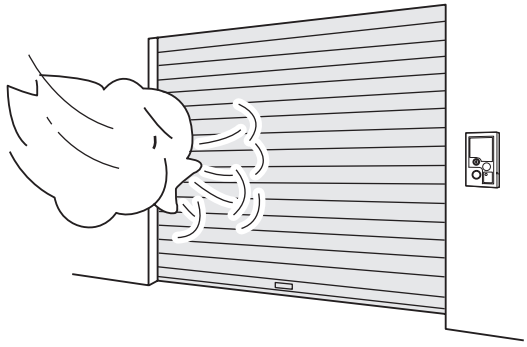
⚠注意： 次の注意事項を必ず守ってください。軽傷を負うか、または物的損害の可能性があります。



シャッター開閉中は、シャッターカーテンに手をふれないでください。シャッターカーテン呑み込み口などのすき間に手をはさむおそれがあります。

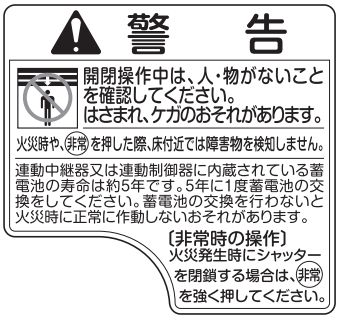


スイッチ・制御盤など、電気部品の周辺には水をかけないでください。漏電、誤作動などの故障の原因になることがあります。



台風など強風時、シャッターを開閉しないでください。シャッターが壊れるおそれがあります。

本商品には、お客様にとくに注意して正しくご使用いただくために「警告ラベル」を電気式手動閉鎖装置のフタに貼り付けてあります。
十分ご理解されたうえでご使用ください。



4-2. 非常時・点検時の操作（火災発生時・点検時）

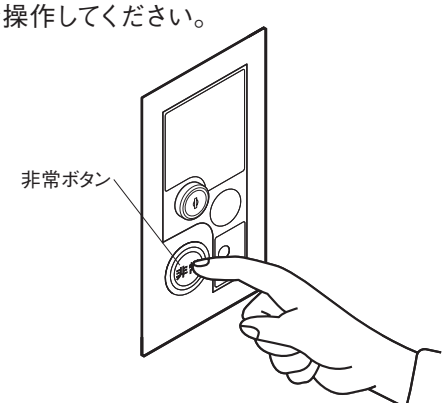
火災発生時、感知器が火災を検知すると、シャッターが自動的に閉鎖、床面まで達してから停止します。

火災発生時や点検時にシャッターを閉鎖する場合、以下の方法で操作してください。

(1) 電気式手動閉鎖装置

●動作説明

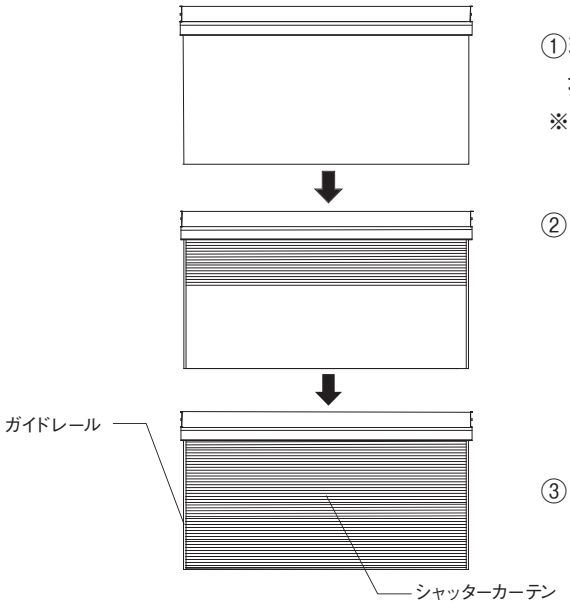
非常ボタンを押すことによりシャッターが閉鎖開始し、
床面まで達し閉鎖完了します。



スイッチボックス形の場合

操作方法

■防火防煙シャッター動作フロー



①非常ボタンの樹脂カバーを突き破るまで強く
押し、中の赤いボタンを押してください。
※手動閉鎖装置は上記以外の場合もあります。

②シャッターが自動閉鎖を開始します。

※シャッター閉鎖中に、振動などによる影響で瞬間的に異常表示ランプが点滅することがありますが、異常ではありません。
異常表示ランプが継続して点滅している場合、障害物検知が効かないため、最寄りの三和シヤッター工業（株）またはFTS（修理連絡先）へご連絡ください。

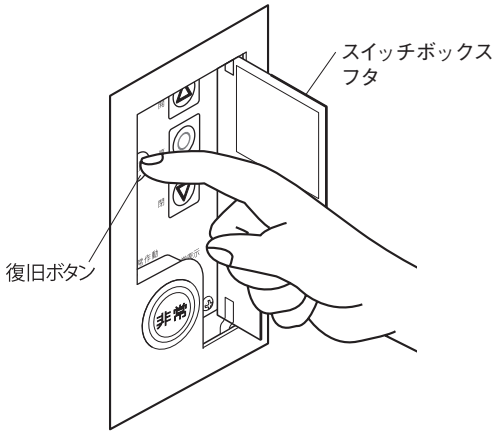
③シャッターが床面まで達し、閉鎖完了します。

復帰方法

電気式手動閉鎖装置のスイッチボックスフタを開け、復旧ボタンを押してください。ただし、防災盤（連動制御器）が復旧していない場合は自動閉鎖装置は復旧できません。
復帰後は樹脂カバーを装着してください。

※樹脂カバーの交換については最寄りの三和シヤッター工業（株）営業所までご連絡ください。

〈電気式手動閉鎖装置〉



※手動閉鎖装置は上記以外の場合もあります。

レール内蔵形の場合

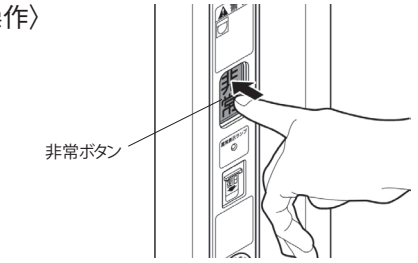
※『(B-172)レール内蔵形手動閉鎖装置／ワイヤレススイッチ』取扱説明書を併せてご覧ください。

操作方法

「非常ボタン」をロックされるまで強く押してください。自動閉鎖装置を介して開閉機のブレーキが解放され、シャッターが閉鎖します。

●シャッター閉鎖時の動作については、16ページをご覧ください。

〈操作〉

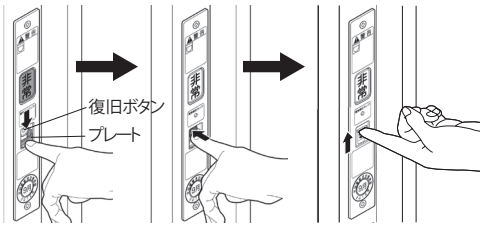


復帰方法

プレートを下にスライドしてください。「非常ボタン」のロックが解除されます。その後、復旧ボタンを押してください。ただし、防災盤（連動制御器）が復旧していない場合は、自動閉鎖装置は復旧しません。復帰後は、プレートを上にスライドし、元に戻してください。

※プレートを下にスライドすると非常ボタンが解除されますが、その時点ではまだ復旧していません。必ず復旧ボタンを押してください。

〈復帰〉



⚠ 警告

シャッター降下位置に立って、非常ボタンを操作しないでください。シャッターにはさまれるおそれがあります。

（2）防災盤

●動作説明

防災盤により操作する場合においても、シャッターは9ページの「(1)電気式手動閉鎖装置」による操作の場合と同様の動作を行います。　※防災盤の詳細につきましては各説明書をご覧ください。

操作方法

①防災盤の起動スイッチを押してください。

②シャッターが閉鎖開始し、床面まで達し閉鎖完了します。

復帰方法

①防災盤の復旧を行ってください。

※防災盤は別業者工事ですので、各説明書をご覧のうえ、復旧動作を行ってください。

②「(1)電気式手動閉鎖装置の復帰方法」と同様の操作を行ってください。

4-3. 停電時の開放操作

停電時のシャッター開放操作は、専用の操作用具（チェーンまたはハンドル）を用いて行います。
開閉機の種類によっては、操作用具がオプションとなっているため設置していない場合があり、また高所作業になります。
操作用具が必要な場合は最寄りの三和シヤッター工業（株）営業所またはＦＴＳ（修理連絡先）へご連絡ください。

⚠ 警告

「緊急必要時以外」は、停電復帰を待ってから通常時の操作を行ってください。

止むを得ず操作する場合は、下記の事項を確認してください。

●高い所での作業は、足場の安全を確認してから行ってください。

●シャッター開放中は、人や車の出入りは絶対におやめください。はさまれると危険です。

●点検口を開ける際、チェーンやハンドルが落下してくることがありますので注意して開けてください。

⚠警告

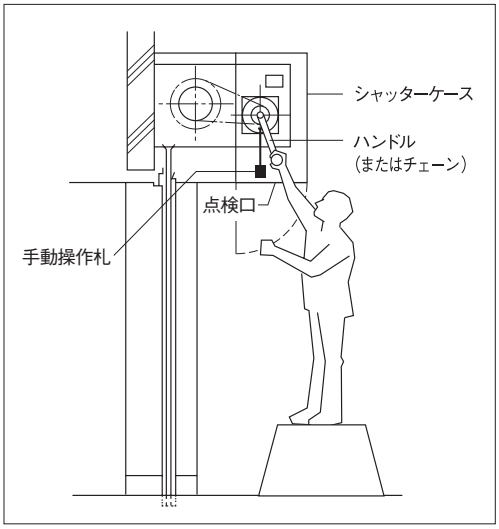
操作用具（チェーンまたはハンドル）により開放するときは、全開近くになりましたらそれ以上開放しないでください。
座板がまぐさの上に入り込み、火災時に閉鎖障害を起こす可能性があります。

お 願 い

●チェーン操作時、ブレーキ解放ひもが垂れ下がっているとチェーンガイドに巻き込むおそれがあります。
●操作用具（チェーンまたはハンドル）により開放するときは、全開近くになりましたらそれ以上開放しないでください。
座板がまぐさにあたり、まぐさが損壊するおそれがあります。
●操作終了後は操作用具（チェーンまたはハンドル）をもとの状態に戻してください。ハンドル式の場合は、操作後、開閉機にハンドルが付いたままになっていないことを確認してください。チェーン式の場合は、チェーン収納袋に入れてください。

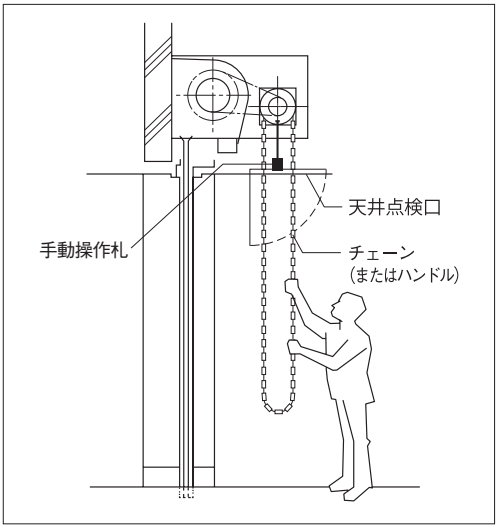
開閉機がシャッターケース内の場合

●シャッターケースの点検口を開けてください。
●操作用具（チェーンまたはハンドル）をセットして操作を行ってください。



開閉機が天井内の場合

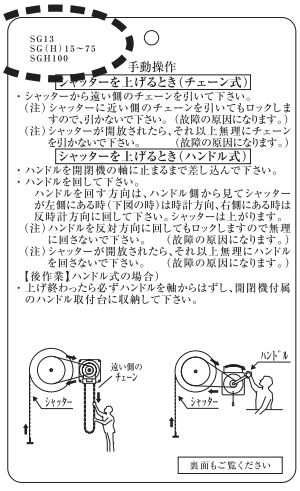
●天井の点検口を開けてください。
●操作用具（チェーンまたはハンドル）をセットして操作を行ってください。



※ブレーキ解放ひもの先端に「手動操作札」が付いていますので、それに基づいて操作してください。

■停電時の操作方法は、開閉機の種類によって異なります。
「手動操作札」の左上に書かれている型式を確認してください。

型　式	操作方法
SG13 SG(H)15～75 SGH100	SG開閉機の場合（12ページ）
SFE150、220	SFE開閉機の場合（13ページ）


SG13
SG(H)15～75
SGH100
手動操作
■シャッターを上げるとき（チェーン式）
・シャッターから遠い側のチェーンを引いて下さい。
（注）シャッターに近い側のチェーンを引いてもロックしますので、引かないで下さい。（故障の原因になります。）
（注）シャッターが開放されたら、それ以上無理にチェーンを引かないで下さい。（故障の原因になります。）
■シャッターを上げるとき（ハンドル式）
・ハンドルを開閉機の軸に止まるまで差し込んで下さい。
・ハンドルを回して下さい。
ハンドルを回す方向は、ハンドル側から見てシャッターが左側にある時（下図の時）は時計方向、右側にある時は反時計方向に回して下さい。シャッターは上がります。
（注）ハンドルを反対方向に回してもロックしますので無理に回さないで下さい。（故障の原因になります。）
（注）シャッターが開放されたら、それ以上無理にハンドルを回さないで下さい。（故障の原因になります。）
【後作業】ハンドル式の場合）
・上げ終わったら必ずハンドルを軸からはずし、開閉機付属のハンドル取付台に収納して下さい。
遠い側のチェーン
シャッター
ハンドル
シャッター
裏面もご覧ください

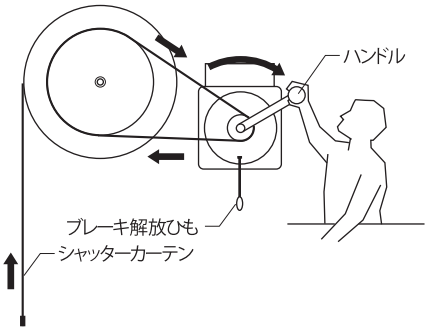
手動操作札（例）

●SG開閉機の場合

操作には、チェーン式とハンドル式があります。開閉機に設置されている方式に基づいて操作してください。

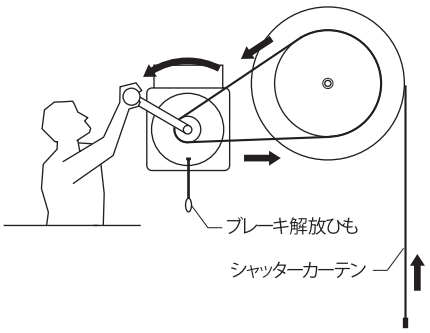
ハンドル式の操作方法

■シャッターを開放するとき



①ハンドルを開閉機の軸に止まるまで差し込んでください。
②ハンドルを回してください。ハンドルを回す方向は、ハンドル側からみてシャッターが左側にあるときは、時計方向、右側にあるときは、反時計方向に回してください。シャッターが開放していきます。
③シャッターが上限位置（シャッターケース下面や天井面）まで開放されたら、それ以上ハンドルを回さないでください。故障の原因になります。
④開放操作が終了したら、必ずハンドルを軸から外してください。外したハンドルは開閉機よこにハンドルかけがありますので掛けてください。

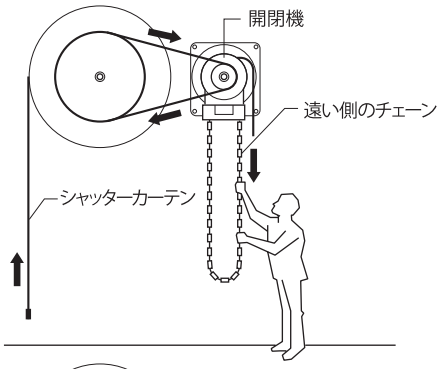
■シャッターを閉鎖するとき



①シャッターの下に障害物のないことを確認してください。
②開閉機にハンドルが付いていないことを確認してください。ハンドルが付いているときは必ず軸から外し、開閉機よこのハンドルかけに掛けてください。付けたままでシャッターを下ろすと、振動によりハンドルが落下するおそれがあります。
③ブレーキ解放ひもを引くと高速でシャッターが閉まるので解放ひもは寸動で操作してください。解放ひもを放すとシャッターは停止します。
④シャッターが床面に接触したら、ブレーキ解放ひもを放してください。下げすぎは故障の原因になります。

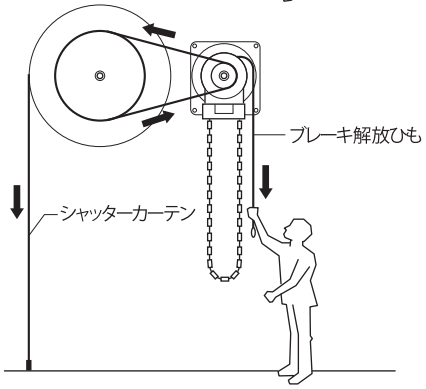
チェーン式の操作方法

■シャッターを開放するとき



①シャッターから遠い側のチェーンを引いてください。シャッターが開放していきます。
②シャッターが上限位置（シャッターケース下面や天井面）まで開放されたら、それ以上チェーンを引かないでください。故障の原因になります。
③チェーンをチェーン収納袋に入れてください。

■シャッターを閉鎖するとき



①シャッターの下に障害物のないことを確認してください。
②ブレーキ解放ひもを引くと高速でシャッターが閉まるので解放ひもは寸動で操作してください。解放ひもを放すとシャッターは停止します。
③シャッターが床面に接触したら、ブレーキ解放ひもを放してください。下げすぎは故障の原因になります。

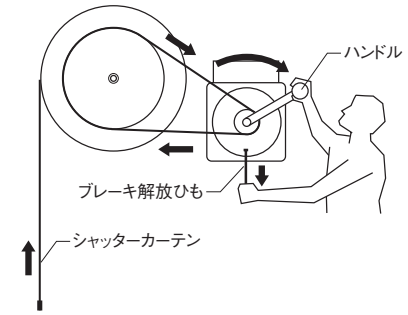
●SFE開閉機の場合

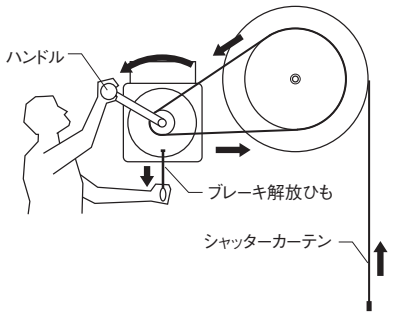
操作には、チェーン式とハンドル式があります。開閉機に設置されている方式に基づいて操作してください。

ハンドル式の操作方法

■シャッターを開放するとき

①ハンドルを開閉機の軸に止まるまで差し込んでください。
②ハンドルが回転しないようにしっかりもって、ブレーキ解放ひもを引きます。
③ブレーキ解放ひもを引いたままハンドルを回してください。ハンドルを回す方向は、ハンドル側からみてシャッターが左側にあるときは、時計方向、右側にあるときは、反時計方向に回してください。
④ハンドルをもったまま、ブレーキ解放ひもから手を放します。ブレーキ解放ひもを引いたままでハンドルから手を放すとハンドルが逆回りして危険です。手を放すときは必ずブレーキ解放ひもを先に放してください。
⑤ハンドルから手を放します。シャッターがシャッターケース下面や天井面より10cmくらい下まで開放されたら、それ以上ハンドルを回さないでください。故障の原因になります。
⑥開放操作が終了したら、必ず軸からハンドルを外してください。外したハンドルは開閉機よこにハンドルかけがありますので掛けてください。





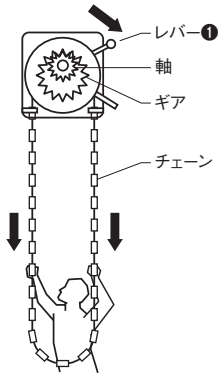
■シャッターを閉鎖するとき

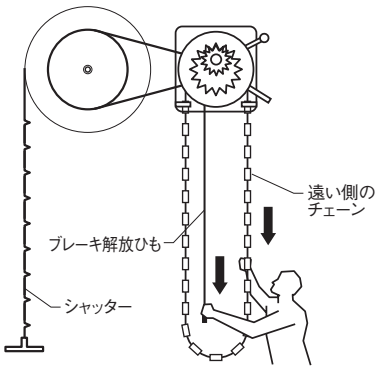
①シャッターの下に障害物のないことを確認してください。
②開閉機にハンドルが付いていないことを確認してください。ハンドルが付いているときは必ず軸から外し、開閉機よこのハンドルかけに掛けてください。付けたままでシャッターを下ろすと、振動によりハンドルが落下するおそれがあります。
③ブレーキ解放ひもを引くと高速でシャッターが閉まるので解放ひもは寸動で操作してください。解放ひもを放すとシャッターは停止します。
④シャッターが床面に接触したら、ブレーキ解放ひもを放してください。下げすぎは故障の原因になります。

チェーン式の操作方法

■シャッターを開放するとき

①レバー❶を下に下げ(または両側のチェーンを持って両方同時に下に引き)開閉機の軸とホイールのギアを噛み合わせてください。
②シャッターから遠い側のチェーンを持って、ブレーキ解放ひもを引きます。
③ブレーキ解放ひもを引いたままシャッターから遠い側のチェーンを引いてください。シャッターが開放していきます。
④チェーンをもったまま、ブレーキ解放ひもから手を放します。ブレーキ解放ひもを引いたままでチェーンから手を放すとホイールが逆回りして危険です。手を放すときは必ずブレーキ解放ひもを先に放してください。
⑤チェーンから手を放します。シャッターがシャッターケース下面や天井面より10cmくらい下まで開放されたら、それ以上チェーンを引かないでください。故障の原因になります。





■シャッターを閉鎖するとき

①シャッターの下に障害物のないことを確認してください。
②開閉機の軸とホイールのギアが噛み合ってないことを確認してください。噛み合っているときはレバー❶を上に上げるかレバー❷を引くかして、必ず軸とギアを放してください。噛み合ったままでシャッターを下ろすとホイールも回転し危険です。また故障の原因になります。
③ブレーキ解放ひもを引くと高速でシャッターが閉まるので解放ひもは寸動で操作してください。解放ひもを放すとシャッターは停止します。
④シャッターが床面に接触したら、ブレーキ解放ひもを放してください。下げすぎは故障の原因になります。